

麻雀最強戦 2011 FINAL



板川は息を整え、「リーチ」とを切り出した。の放銃を免れた格好だが、このリーチに北家の灘が降りてしまったから大変。頭ハネが消え、板川と小島の一騎打ちとなってしまう。四巡目に、両者がツモる度に、観衆がどよめく。そして盲牌した小島の親指から、ゆが現れたとき、板川の2匹目のモンスター退治は完了した。

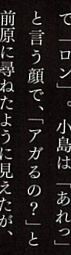
南4局
板川38800 灘20300
小島11600 前原29300

最後に残されたのがラス親の前原モンスター。前原は2600オールが親満一発で替わる点差だ。口で言うのはたやすいが、それをきっちり入れているのだからモンスターたる所以である。



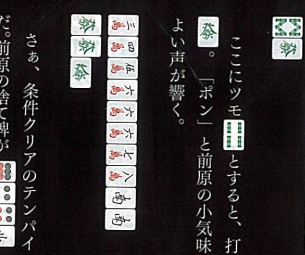
板川の抱えるが危ない。しかしあろうことか、このは灘の頭つばねなのである。小島は自らツモるしかない。次巡、板川がツモったのは小島に暗刻で入っている。

早くもイーシャンテン。対して板川は



さあ、条件クリアのテンパイだ。前原の捨て牌がで、無理に手を作っているように見え、板川のも責められない。次巡、板川はカンを入ると敢然と八を打ち出しているところから、まだ前原にテンパイが入っているとは思っていない節もあった。南が出ても、六九をツモっても前原最強位の誕生。しかし前原はすでに灘から出た九で「ロン」。小島は「あれ」と言う顔で、「アガるの？」と前原に尋ねたように見えたが、

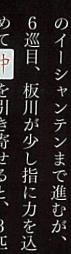
彼らは前もって決めていたのだろ



1巡目にツモの打北。2巡目にツモの打南。

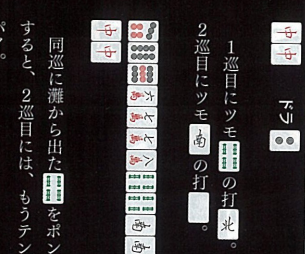
同巡に灘から出たをポンすると、2巡目には、もうテンパイ。

同巡に灘から出たをポンすると、2巡目には、もうテンパイ。



のイーシャンテンまで進むが、6巡目、板川が少し指に力を込めて、中を引き寄せると、3匹

のイーシャンテンまで進むが、6巡目、板川が少し指に力を込めて、中を引き寄せると、3匹



のイーシャンテンまで進むが、6巡目、板川が少し指に力を込めて、中を引き寄せると、3匹

のイーシャンテンまで進むが、6巡目、板川が少し指に力を込めて、中を引き寄せると、3匹

のイーシャンテンまで進むが、6巡目、板川が少し指に力を込めて、中を引き寄せると、3匹



目のモンスター退治も終了、初の麻雀最強位連覇を達成したのだった。予選を通じ、出場者の全員がミスなく打ったわけではない。板川にしてもしかりである。鳴きの怖さも痛感した。ただ、観

ていて一番安心出来る打ち筋を見せてくれたのが板川であったことも事実である。紙一重、本当に紙一重の戦い、ただこの紙一枚というのが、思っている以上に、破れない差かもしれないと感じた次第である。

そして板川も

そして板川も



そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も

そして板川も